



# **SETOUCHI BOSAI MAGAZINE**

**Vol. 1**



①

- ① 新型コロナウイルス感染症対策のため、車内で待機。
- ② 車で避難行動。平時のつながりがスムーズな受付につながる。
- ③ 集合後、各班の情報を速やかに本部で共有。



②



③

令和4年6月26日(日) 午前8時から、百田町内会自主防災会が避難訓練を実施した。

今回の避難訓練では、大雨による大規模な浸水害を想定し、邑久B & Gまで車で避難した。

参加者64名、車43台での訓練であったが、避難開始からわずか25分で避難を完了し、百田地区住民の防災意識の高さに感心させられた。

短時間で避難できた理由としては、災害委員の統率がしつかりと取れていたことと、スムーズな受付が出来ていたことが挙げられる。

あらためて、平時の「顔の見える関係づくり」の大切さを感じた訓練であった。

令  
和  
4  
年  
6  
月  
2  
6  
日  
(  
日  
)

邑久町  
ももた

百田町内会自主防災会

避難訓練

**\* 訓練当日の動き**

- 午前8時00分 防災会長が危機管理課へ今後の見通しについて確認
- 05分 災害委員、事務局メンバーにトランシーバーのスイッチを入れておくよう連絡
- 40分 瀬戸内市に警戒レベル3「高齢者等避難」発令
- 50分 百田町内会災害対策本部立ち上げ
- 55分 防災会長から各組災害委員に対し、各組住民へ「高齢者等避難」発令と邑久B & Gへの避難を勧める連絡を指示
- 9時00分 住民避難開始、各組住民へ連絡が済み次第、本部も移動
- 25分 避難完了、訓練振り返り
- 50分 解散

# リーダーにインタビュー

百田町内会自主防災会の備後清さん、久山耕さん、齊藤祥子さんの3名にお願いして、百田公会堂でお話を伺う機会を設けていただいた。3名ともせとうち防災リーダーとして、自主防災会立ち上げ初期から活動を続けている。

## 訓練をふりかえって

今回の避難訓練は車での避難とし、感染症対策のため「家族以外の乗合せはしない」とこととした。「コロナ禍でもできることを考えた」と久山さんは話す。

また、「早めの避難であれば、車で邑久B&Gまで避難できると周知できたことがよかつた」と齊藤さん。百田地区から邑久B&Gまでは千町平野を通る必要があるが、大雨の際には浸水

が懸念される地域でもあり、早期の避難がカギとなる。今回の訓練でも、警戒レベル3「高齢者等避難」で避難を開始しており、住民への意識付けの意図を感じる。

発災時には「自分の命は自分で守る(自助)」が原則となるが、高齢者や障がいのある人など、様々な事情で支援が必要な人が地域にはいる。「発災直後は、行政による支援(公助)には限界があるため、近隣住民の助け合いによる対応(共助)が重要だ」と3人は話す。今後、百田町内会自主防災会として、高齢者なども巻き込みながら、取り組みを深めていきたいという。



齊藤祥子さん。登下校の見守りなど、防災以外の面からも地域とのつながりづくりを実践する。



久山耕さん。彼が行動を起こさなければ、百田町内会自主防災会の発足はなかった。

## 防災リーダー

### としての思い

どのような思いをもって防災リーダーは地域で活動を続けているのだろうか。

百田町内会自主防災会を立ち上げた久山耕さんは、平成26年の長野県新城断層地震における「白馬の奇跡」の話聞き、百田地区でも防災の取り組みが必要だと考えた。「協力してく

れる人がいたからできたし、今でも続けられている理由だ」と久山さん。立上げ時には地域の中心的な人に協力を依頼して回ったという。「久山さんや齊藤さんといった中心メンバーが抜けた

後どうするのか。次の世代を見つめる意識で取り組みたい」と語るのは、自治会長・自主防災会長を現任する備後清さんだ。地域には若手人材もいるが、この先、どのように活動に巻き込んでいくのが腕の見せ所だ。防災の取り組みは「やりすぎず、継続することが大切」だと齊藤さんはいう。昔に比べて、地域には様々な年代・職業の人が暮らしており、生活スタイルもばらばらだ。だからこそ「命を守る防災の意識を途切れさせないようにしたい」という。今後は、地域の行事とも連動させながら、取り組みを進めていきたいと語った。



会長の備後清さん。次世代への引継ぎまで見据えた取り組みを目指す。



令和4年7月23日(土)

## せとうち防災リーダー フォローアップ研修

令和4年7月23日(土)13時から、せとうち防災リーダーを対象とした「せとうち防災リーダーフォローアップ研修」が開催された。参加者は47名。当初は防災講話の後、リーダー交流会を予定していたが、感染症対策のため、交流会は中止となった。

講師は、くらしき防災士の会 北地区長な郎氏。演題は「西日本豪雨災害の現場から考える 住民リーダーの役割」。自身の実践を交えて、リーダーとしての心構えや具体的な取組事例について語った。

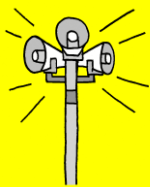
西日本豪雨災害を契機に、「行政主導の防災」から「住民主体の防災対策」への転換が叫ばれている。「みんなで逃げるから、逃げないという人がいなくなる。みんなが逃げるから、逃げられない人のことが気にかかると秋岡氏はいう。防災意識の高い社会の構築のために、リーダーには率先して行動することが求められる。

結びには、リーダー同士の情報共有の重要性を呼びかけた。



講師:秋岡 志郎 氏

くらしき防災士の会 北地区長、倉敷市大島自主防災会 会長を現任。岡山市消防局消防吏員でもあり、平成30年7月豪雨災害の際には、現地での活動も経験。町内会や自主防災会、PTAなどを対象とした防災講話を実施。昨年度からは岡山県の自主防災組織支援講師団講師としても活躍。



# 防災リーダー アンケート結果まとめ

研修後に回答していただいたアンケート結果をまとめてみました！

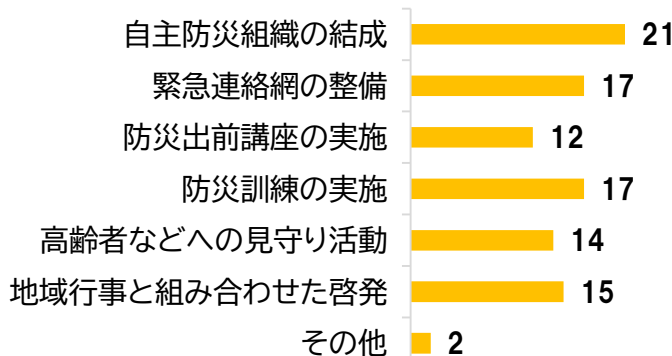
回答者数: **40名**

## Q.ご自身が取り組んでいる「自助」の対策は？



ハザードマップの活用や防災アプリ等の入手は進んでいる一方で、**家具の転倒防止や非常持出袋の準備などができているのは半数以下**という結果に。地域の防災力を発揮するためにも、**まず自分自身が被災しないための備え**に取り組みましょう。

## Q.地域で取り組んでいる(取り組んだことがある)「共助」の対策は？



その他の取り組みとして、「**地域の危険個所の確認**」「**防災マップづくり**」などに取り組んでいる地区もあるようです。今後、各地区の取り組みの交流ができるといいですね。また、**瀬戸内市の自主防災組織結成率は75.7%**(県全体:87.9%、R4.4.1現在)です。自主防災組織が未結成の地区は、積極的に自主防災組織の立ち上げに取り組みましょう。

## Q.地域で活動をするうえで、悩んでいることや困っていることは？

防災リーダーの皆さんが様々な面で悩みながら活動を続けている様子が見えました。

活動への理解が得られない／  
関心が薄い／危機意識が低い

自主防災会の担い手がない

個人情報保護の問題を  
どのようにケアするか

高齢者が多いので避難が心配

地震による家屋倒壊時などに  
救出活動ができるか



## Q.あなたが考える「せとうち防災リーダーの役割」とは？

「住民主体の防災対策」を進めるために、リーダーの皆さんの力が必要です。今後、防災リーダーはどのような役割を担っていくべきか、一緒に考えていきましょう。

「顔の見える関係」をつくり、住民・行政から信頼される人になること

災害が起きた時でも、冷静かつ的確に行動し、率先避難者となること

地域の状況に合わせ、結果を焦らず地道に取り組むを進めることができる人



# 防災掲示板

市が実施する防災に関する取り組みについてお知らせするページです。  
地域における防災活動の参考にしてください。

## 01 情報収集には「瀬戸内市防災アプリ」が便利！

災害時には複数の方法で情報収集を行うことが有効です。  
瀬戸内市では、令和4年度から「**瀬戸内市防災アプリ**」の運用を始めました。  
お手元のスマートフォンにインストールするだけで、どこにいても手元に**防災情報**や**市からのお知らせが届きます**。

文字と音声で、何度でも見返す・聞き返すことができます。

Google play ストア、Apple Storeから入手できます。

瀬戸内市

# 防災 アプリ



## 02 「防災出前講座」で防災意識を高めよう！

地域の防災意識の向上は、非常に重要な取組です。  
危機管理課では、災害に関する基本的な知識や備えの方法、自主防災会の活動の進め方などについて、「**防災出前講座**」を行っています。

「〇〇地区のハザードについて教えてほしい」「高齢者に必要な防災対策が知りたい」「防災アプリの操作方法が知りたい」など、リクエストに合わせてお話しすることもできます。

**防災出前講座を依頼される場合は、事前に危機管理課へ連絡してください。**



## 03 もしものために「届出避難所制度」を活用しよう！

地域の集会所などをあらかじめ届出しておくことで、台風などの風水害時に、自主防災会などが自主的に開設・運営する避難所（**届出避難所**）として使用することができます。



### 期待される効果

- よく知っている場所に避難することで、避難行動につながりやすい
- 普段から付き合いのある気心知れた人と過ごすことができる
- 避難行動に時間がかかる人（高齢者、障がいのある人、子どもなど）が利用することで、緊急度が高まったときにすぐに次の行動（安全な場所への移動）にうつることができる

## ～ 編集後記 ～

市の防災担当者となって2年目を迎えますが、防災対策における課題は年々、多様化・複雑化しており、これらの課題を解決していくためには地域と行政が連携し、お互いに知恵を出し合いながら取り組んでいく必要があると痛感しています。

担当者としては、住民の皆さまと情報共有し、「顔の見える関係」をつくりながら、瀬戸内市の防災対策をともに進めていきたいと考えているところです。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大により、各地区への出前講座や防災訓練の実施が思うように進まない日々が続いています。市民の皆さまにおかれましても、防災の取り組みに限らず、あらゆる活動を進めていくことがむずかしい状況となっていることかと思えます。

このような状況下で、瀬戸内市の防災に関する取り組みや、地域で地道に活動を続けている方々の思いを、市民の皆さまと共有する方法はないかと考え、小冊子「SETOUCHI BOSAI MAGAGINE」の発行に至りました。

今回、本冊子の制作にあたり、インタビューにご協力いただいた百田町内会自主防災会の3名の方は本当にありがとうございました。

「SETOUCHI BOSAI MAGAZINE」は、市民の皆様に気軽に手に取っていただけるよう、A5版サイズにしてみました。今後も市民の皆さまに向けて、本冊子を通して防災に関する様々な情報を発信していきたいと考えています。

本冊子が幅広い年代の方々の手に届き、瀬戸内市の防災対策について関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

# SETOUCHI BOSAI MAGAZINE Vol.1

2022年8月31日発行

**発行 瀬戸内市役所 総務部 危機管理課**

〒701-4301 岡山県瀬戸内市邑久町尾張300-1

TEL:0869-22-3904 FAX:0869-22-3299

E-mail:kikikanri@city.setouchi.lg.jp

HP:<https://www.city.setouchi.lg.jp>